2026 September No.230

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部　　発行：会長　三沢 幸史

新会長ごあいさつ
私の経験をぜひ活用ください



東京都作業療法士会
会長　**三沢 幸史**

令和８年６月28日の社員総会で、新しく会長に選任されました三沢幸史と申します。まず、田中勇次郎前会長に感謝申し上げます。16年の長きにわたって私たちの先頭に立ち率いてくださり、この間に都士会事業は拡大し東京都をはじめ行政、関係団体、企業から信用され頼られる専門職集団に発展しました。特に障害児・者へのICT、福祉機器による作業療法支援のスペシャリストとして全国に広く知られる存在であり都士会の誇りと言えます。その専門性を慕って多くの才能が集まってくれました。

さて、都士会会長が16年ぶりに交代となりましたので、自己紹介するとともに、ぜひ私の経験を活用いただきたいと願っております。

私は作業療法士になって今年度でちょうど40周年を迎えました。臨床５年目から日本作業療法士協会の各部・委員会にかかわり、これまでほぼ切れ目なく委員長、部長として役割を担い、2019年から４年間は協会理事として活動致しました。都士会の役員としては、理事２期を経て2014年からは副会長として前会長の体制を支えてまいりました。

臨床では、身体障害領域で作業全般、福祉用具、高次脳機能障害、スプリント、義手、スイッチ等いわゆるゼネラリストとして何でも行ってまいりました。一方で、山本協会長が主宰する活動分析研究会には第１回から参加しております。また、病院の管理運営では100名超のスタッフを支援する部門部長職に携わってまいりました。特に作業療法士が対象者のために行いたい環境を整えるために、介護予防事業開始時から行政保健師・地域包括支援センター職員や高次脳機能障害者支援センター、就労支援センターとの誰もが協業できる仕組みに注力してきました。その結果、コメディカルとして初めての病院法人理事となり活動いたしました。

私の作業療法士としての根幹にあるのは、地域で作業療法をいかに浸透させていくかということであり、養成校の担任で元協会会長の故杉原素子先生の宿題でもあります。その現時点での答えは、自分の住まう地元で自治会や社会福祉協議会に住民として参画することです。専門職として依頼を受けて地域に関わることと一住民として地域を活性化する活動を行うことはかなり異なりますが楽しいものです。

さて、私の経験をお伝えしましたのは、会員のみなさんに参考にしていただきたいからです。何でもお答えしますので声かけください。みなさんの作業療法士人生をより豊かで充実したものになるよう活動してまいります。

CONTENTS

◆新会長ごあいさつ　私の経験をぜひ活用ください…❶
◆第22回東京都作業療法学会 開催報告・総括…❷
◆インクルーシブ・テックフェスタ2026
～テクノロジーで広がる遊びと支援の輪～…❹
◆事業部活動報告…❹
◆子ども委員会 活動報告…❺
◆第22回東京都作業療法学会公募企画
「作業療法で地域づくりを構想しよう」の報告…❺
◆認知症の人と家族の生活支援委員会　活動報告…❻
◆認知症にやさしい本の紹介　VOL.57…❻
◆令和8年度診療報酬改定
～身体的拘束の最小化に向けて～…❼
◆AT利活用ワークショップin東京が行われました…❼
◆第22回東京都作業療法士学会の活動報告と研修会のご案内…❽
◆就労支援委員会 第22回東京都作業療法学会のご報告…❽
◆第22回東京都作業療法学会公募企画（災害対策）のご報告…❾
◆ブロック活動報告…❿
◆教育部からのお知らせ…⓬
◆広報部より会員の皆様へ…⓬
◆編集後記…⓬

第22回東京都作業療法学会 開催報告・総括

第22回東京都作業療法学会 学会長　**田原 真悟**

テーマ：やっぱりOTが好き！～「ツドイ、繋がり、拡がった」第22回東京都作業療法学会 総括～

１．はじめに：熱気と笑顔の中で終えることができた第22回学会

2026年、東京都作業療法士会 北多摩ブロックが主催する「第22回東京都作業療法学会」を開催させていただきました。本学会では、私、田原真悟（戸田中央メディカルケアグループ／北多摩ブロック）が学会長を務めさせていただき、運営スタッフ一丸となって準備を進めてまいりました。

当日は、現場で奮闘する作業療法士（以下、OT）の皆さまを中心に、地域の皆様、未来を担う学生まで多くの方々が一堂に会しました。参加人数は800名以上を記録し、あいにくの天候にもかかわらず、会場は終始あたたかい熱気と笑顔に包まれていました。対面での交流の価値が再認識される中、本学会は知識の伝達にとどまらず、作業療法が持つ人間的な温もりと臨床への情熱を共有する貴重な機会となり、大盛況のうちに全日程を無事終了いたしました。

２．テーマに込めた理念

私自身、身体障がい・高齢者分野やマネジメント、人事分野での経験が20年を超えました。この節目にあたり、私は作業療法という仕事の原点と本質的な力について、次のようなメッセージを発信させていただきました。

「臨床で作業療法士として働き20年、私は人と作業を繋げる作業療法に魅了され続けています。大変な困難を抱える方が作業と出会い、活き活きと主体的に人生を歩まれる場面に幾度となく寄り添ってまいりました。作業療法の現場には自然と人が集まり、繋がり、予想もしなかった新たな作業が拡がっていきます。」

私は北多摩ブロックにおいて、コロナ禍の厳しい制限下で「ツドイノバ」というOTコミュニティを立ち上げた経験があります。繋がりが分断されがちだった時期に、作業療法を共通言語として領域を超えてセラピストが集い、交流が広がっていく体験を目の当たりにしました。

この「集い、繋がり、拡がっていく」プロセスこそが作業療法の本質的な力であり、クライエントのみならず、私たち自身の専門性やキャリアにとっても大きな原動力となっています。本学会では「北多摩ブロックらしさ（仲良く、優しく、無理なく繋がれて、OTが大好きな空気感）」を全面に出し、全ての参加者が心地よく学び、繋がりを実感できる空間づくりを目指しました。

３．学会に参加するとできる「３つの公約」

本学会では、参加者の皆様に明確な価値を提供するため、事前に「３つの公約」を掲げました。

① 臨床の壁を破る「知恵とヒント」を持ち帰れます！

② OT仲間と「熱い繋がり」を築くことができます！

③「やっぱりOTが好き♡」と情熱を充電できます！

当日のプログラムは、この公約を達成すべく多角的に構成しました。演題発表やシンポジウムでは明日からの臨床にすぐ活かせる知見が惜しみなく共有され、まさに「壁を破るヒント」に満ちていたと考えます。領域や世代を超えたディスカッションでは仲間との「熱い繋がり」が生まれ、会場全体のポジティブな空気感により、一人ひとりが「やっぱりOTが好き♡」という情熱を再充電できる一日となったと考えます。

４．運営KGIの設定と結果について

本学会では、関わるすべての皆様（参加者・発表者・講師・企業・スタッフ）の満足度90％以上というKGIを目標に設定しました。

結果として、800名以上にご参加いただき、満足度 約90％（87.5％）という数値となり、おおむねKGIを達成することができました。目標にわずかに届かなかった点は課題として真摯に受け止めますが、多くの企画を通してテーマ通り「ツドイ、繋がり、拡がる」ことができ、皆様に「やっぱりOTが好き」と再確認していただける充実した大会となったと考えております。

５．感謝

初めて学会長という大役を務めさせていただき、無事に終えられた今、ご来場いただいた皆さま、ご登壇いただいた先生方、都士会役員の皆さま、そしてどんなに忙しくても温かい最高の笑顔で最高の働きをしてくださったスタッフの皆さまに心より感謝申し上げます。大役を終え、関係者の皆様と作業療法という仕事そのものに対して感謝の思いでいっぱいです。この貴重な経験は、私のセラピスト人生においてかけがえのない財産となりました。

６．おわりに：次年度の学会と未来へ

準備期間中､スタッフの皆さまへは「新たなスタートを切れる学会にしましょう！」と伝えてまいりました。この一日の熱量を胸に、参加された皆様と共に未来へ羽ばたいていきたいと思っております。私自身も「新たなステージ」に向けて、今後はOTとしての組織マネジメントや人事、キャリアについての研鑽を重ねてまいります。そして、この１年間の運営ノウハウを実行委員長の原田先生が中心となってまとめていただいております。来年度の齊藤学会長へスムーズに引き継げるよう準備を進めてまいります。

東京都作業療法士会の今後のますますの発展を祈念いたしまして、私の学会長総括とさせていただきます。皆様、本当にありがとうございました！



インクルーシブ・テックフェスタ2026
～テクノロジーで広がる遊びと支援の輪～

スポーツ支援委員会 担当理事 台東区立台東病院　**楠本 直紀**

2026年８月６日、大崎ブライトコアホールにて「インクルーシブ・テックフェスタ2026～あそぼう！つくろう！つながろう！～」が開催されました。本イベントは、人工呼吸器などの医療機器を日常的に使用する「医療的ケア児」や障害のある子どもたちが、最新テクノロジーを活用してゲームなどに挑戦するものです。当日は約60組の家族が参加し、体のわずかな動きで新しい遊びの形を体験しました。

本会からも多くの作業療法士（OT）がボランティアとして参加しました。OTの役割は、子どもたち一人ひとりの身体機能やニーズに合わせ、デバイスの配置や操作方法を細やかに調整する「フィッティング」です。主催事務局からは、OTの専門知識があったからこそ「障害の有無にかかわらず、誰もが楽しめる場」が実現できたと、感謝の意が示されました。

参加した会員からは「最新技術の臨床応用のヒントを得る、非常に大きな学びの場となった」との声が寄せられました。

障害の有無にかかわらず、誰もが「ごちゃまぜ」に楽しめる共生社会の実現に向け、本会は今後もこうした社会活動に積極的に取り組んでまいります。来年度もぜひ多くの会員の皆様と協力し、支援と笑顔の輪を広げていきたいと考えています。

事業部活動報告

事業部　**大舘 哲詩**

例年の通り事業部では都内養成校のオープンキャンパスに同席させていただき、来場者への作業療法士として働く部員から「現場の声」として疑問質問などにお答えするなどの企画を実施しています。原稿作成時点で２校の実施を終え、また今後も参加予定校があります。来場する高校生やその親御様とお話ししていると、実際の現場の話は興味深く聞いていただける印象があると同時にまだまだ作業療法士がどのように働いているかのイメージが伝わっていないのだなと思う部分もあります。中高生やその親御様に対しても引き続き啓発機会を見つけて活動を重ねていきたいと思います。

また９月にはOTの日がございます。今年は日本栄養治療学会との合同企画として９月24日19時からオンラインで「OTに必要なリハ栄養の基礎」を東京女子医科大学の若林秀隆先生にご講義いただく予定となっています。リハ栄養については作業療法士としてもしっかり学んでおくべきトピックスの一つだと思います。オンライン研修、かつ会員は無料ということで参加しやすい研修になっているかと思います。ニュースがお手元に届く時には間際となっているかもしれませんが、ぜひご参加ください。



子ども委員会 活動報告

子ども委員会　**上田 敏宏**

子ども委員会では、2025年度より地域の小中学校からの依頼に基づき、学校に作業療法士が支援に出向けるよう「OT派遣事業」を始めています。

近年、学校現場では、不登校児童生徒の増加、発達特性のある児童生徒への支援、多様化・複雑化する教育的ニーズがあり、都士会に対するOTの派遣依頼のご相談が増えていることが背景にあります。この派遣依頼に対応できるように子ども委員会が中心となって組織的に対応できる事業を立ち上げました。事業内容は、以下の４点です。派遣を希望するOTの登録システムを確立、学校等から派遣希望の申し込みを受け付け、派遣ニーズ に応じて派遣するOTのマッチング、OT派遣へのフォローアップです。

現在、登録メンバーは21名です。登録後は、面接、同行訪問（希望者）を実施し、訪問任務にあたります。不定期でフォローアップ勉強会も行っています。

登録システムは、学校へ派遣できるOT育成も含まれており、発達領域以外の方も登録できるようになっています。他領域のOTでも派遣できるように、昨年、学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修（基礎編）を開催しました。今年から、基礎編がe-learningで受講できるようになる予定です。今後の予定は、ステップアップとして（実践編）の開催を検討しています。決まり次第、都士会HPに掲載します。ご興味のある方は、ぜひ、ご参加ください。

第22回東京都作業療法学会公募企画「作業療法で地域づくりを構想しよう」の報告

地域づくり共創部（JR東京総合病院）　**安齋 哲也**

地域づくり共創部では、7月5日に開催された第22回東京都作業療法学会において、公募企画「作業療法で地域づくりを構想しよう」を実施しました。本企画は、作業療法士による地域づくりについて参加者と共に今後の実践を構想することを目的に、グループワークを中心に構成しました。

前半は部員の安齋より、文献調査で明らかになった地域づくり実践を促進する要因や、国内・都内の現状を紹介しました。教育体制の整備、実践者同士のネットワークづくり、作業療法のプロモーション強化、制度整備などが重要な促進要因であることを紹介しました。また、当部の研修会や「理学療法士及び作業療法士法」の法改正の議論も地域づくりの推進につながる可能性があることを共有しました。

後半のグループワークでは、地域づくりをさらに発展させるために必要な取り組みについて活発な議論が行われました。「学生の実習で地域づくりを学ぶ機会の充実」「地域支援を必要とする施設・組織とOTをつなぐ仕組みづくり」「他分野での学会発表」や「SNSを活用した情報発信」など､多様なアイデアが提案されました。

今回参加者の皆さんと共に構想したアイデアを今後の活動に生かし、作業療法士による地域づくり実践をさらに推進できるよう、研修会や企画を進めてまいります。

認知症の人と家族の生活支援委員会　活動報告

認知症の人と家族の生活支援委員会　**但野 修理**

６月には当委員会で初めての交流会を開催しました。当日は新しく出会う方も多く、ドリンクと食事を楽しみながらゆったりとした交流ができました。交流会の中では作業療法士がオレンジカフェを実践するためのミニ講義も開催されました。今後、当委員会では作業療法士がオレンジカフェを運営できるようにステップアップ研修を検討していますので、詳細が決まり次第、改めてご案内させていただきます。

同月には介護有料老人ホームサニーステージ様から研修会のご依頼があり実施しました。機能訓練指導員の方に向けて、認知症の方へ自信を持ってもらう方法、上手く運動に誘い出す方法を知りたいとのご相談でした。実際の現場でも運動や活動を促したいが、断られてしまう場面が多いとのことでした。研修会では、認知症の方の世界（主観的世界）と支援者側の世界（客観的世界）を知っていただき、両世界の差異によって両者の関係に歪みが起きることをお伝えしました。そして、実際に認知症の方の主観的世界に合わせたコミュニケーション方法、誘導方法などを一緒に考えていただき、活発な研修会となりました。

当委員会では、認知症に関する研修会のご相談を随時受け付けています。気軽にご連絡ください。

認知症にやさしい本の紹介　VOL.57

図書館司書　**舟田 彰**

『家族で「軽度の認知症」の進行を少しでも遅らせる本～正しい知識と向き合い方』

著者：内門大丈

軽度の認知症と向き合う家族にとって、本書は「何をすればいいのか」を具体的に示してくれる実践書だ。特徴的なのは、医学的知識を押しつけるのではなく、日常の小さな工夫が進行を確かに遅らせるという希望を丁寧に描いている点だ。運動・食事・睡眠といった生活習慣の整え方は、専門家の知見を踏まえつつも、家族が今日から取り組めるレベルに落とし込まれている。

特に印象的なのは、「認知症の人ができることを奪わない」という姿勢を一貫して示していることだ。料理や買い物、昔話など、生活に根ざした認知刺激の重要性を説き、家族との対話が脳の活性化に直結することを具体例とともに示してくれる。難しい訓練よりも、本人が心地よく続けられる活動こそが効果的だという視点は、多くの家族に安心を与えるはずだ。

また、コミュニケーションの章は特に実用的で、否定しない話し方、選択肢の提示の仕方、環境の整え方など、「その人らしさを守るための関わり方」がわかりやすく整理されている。読み終える頃には、認知症の進行を完全に止めることはできなくても、家族の関わり方で“暮らしの質”を大きく変えられるという確かな手応えが残る。

家族の不安を軽くし、日々のケアを前向きにしてくれる一冊として強くおすすめしたい。

令和8年度診療報酬改定 ～身体的拘束の最小化に向けて～

保険部　**横山 雄一**

令和８年度診療報酬改定では、入院医療における身体的拘束の最小化がさらに重視され、従来のように体制を整えるだけでなく、実際に拘束を減らしているか、解除に向けた取組を継続しているかが評価される仕組みとなりました。身体拘束廃止・防止の対象となる具体的行為を以下にまとめました。

番号	該当する状況
①	徘徊を防ぐために、車椅子やベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。
②	ベッドからの転落を防ぐために、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。
③	自分で降りられないように、ベッドを柵（サイドレール）で囲む。
④	点滴・経管栄養等のチューブを抜かないように、四肢をひも等で縛る。
⑤	かきむしりや点滴抜去を防ぐために、手指の動きを制限するミトン等を着用させる。
⑥	車椅子や椅子から立ち上がる等をしないように、拘束帯や腰ベルト、車椅子テーブルをつける。
⑦	立ち上がれないように座面が傾斜した車椅子等に固定する。
⑧	脱衣やおむつ外しを防ぐために、つなぎ服を着せる。
⑨	他人への迷惑行為を防ぐために、ベッド等に体幹や四肢をひも等で縛る。
⑩	行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。
⑪	自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する。

これらはあくまでも例示であり、他にも身体拘束に該当する行為があることに注意が必要です。

作業療法士として、患者の生活機能や認知面、環境要因を評価し、環境調整や福祉用具の活用など、拘束に代わる支援を提案する役割が期待されます。患者の尊厳を守りながら、安全と生活の質を両立する視点がこれまで以上に重要であると考えられます。

【参考資料】

＜https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/001703849.pdf＞（最終閲覧日：2026年７月17日）
＜https://www.mhlw.go.jp/content/12304250/001643323.pdf＞（最終閲覧日：2026年７月17日）

AT利活用ワークショップin東京が行われました

東京都障害者ICT総合支援センター（福祉用具部員）　**木全 澪**





日本OT協会では、生活環境支援推進室が主体となり、AT（Assistive Technology：支援技術）をOTの支援技術の１つとして推し進める事業を展開していきます。都士会共催のため、スタッフとして参加してきました。

午前は、生活環境支援推進室の三上さんより、OTがATを使うことを応援する事業を紹介されました。脊髄損傷当事者の方のAT利用を支援している河津さんより、色々なAT活用で生活を切り拓く事例を共有されました。東京都障害者ICT総合支援センターの玄野さんより、センターで機器やアプリの体験ができる事、都士会のOTが同行する在宅訪問支援を始めた事を話されました。

午後はグループに分かれ、①身体状況に機器のほうを合わせて遊べるパラeスポーツ（ゲーム）、②わずかな身体動作でもワンボタンの家電操作、食事介助ロボット「Obi」、③iPhone・iPadを音声で操作する「アクセシビリティ機能」を体験し、④OT×ATつながりワークではICTセンターと地域のOTが情報交換し、今後の連携・協働について話し合われました。

ATも作業療法の味方です。手すりが使えトイレに行ける経験が人生や生活のつなぎ目をつくることがあるように、ATを使えることもその人の大事な生活をつくる一助となります。是非、ATを活用していきましょう。QRコードとURLをご参考下さい。

・日本作業療法士協会　生活環境支援推進室
URL：https://www.jaot.or.jp/seikatukankyou/fukushiyogutaisaku/

・東京都障害者ICT総合支援センター
（東京都在住在勤の方は無料で利用できます！）
URL：https://www.tokyo-itcenter.com/

第22回東京都作業療法士学会の活動報告と研修会のご案内

自動車運転と移動支援対策委員会　**三浦 悠**

都学会の活動報告

第22回東京都作業療法士学会にて電動車椅子体験コーナーと運転・移動支援相談ブースを出展し、多くの来場者にご参加いただきました。

電動車椅子体験ではアビリティーズ・ケアネット株式会社様とセリオ株式会社様のご協力のもと、実際に電動車椅子の操作を行いながら操作性や安全性、利用場面について理解を深めていただきました。

相談ブースでは当委員会所属施設の評価方法や移動支援アプリなどの情報提供を行うとともに、実際の支援に関するご相談にも対応しました。中でも「運転支援を行う病院や教習所の情報が欲しい」「自宅から支援施設へ通える移動手段がない」という声が印象に残りました。都内でも運転支援を行う施設数や移動支援のニーズは、地域によって異なり日々変化しています。委員会として支援施設の情報や連携体制の構築状況、地域性を踏まえた支援方法を定期的に情報発信する必要性を改めて実感する１日となりました。ご参加いただいた皆様に心より御礼申し上げます。今後も頂いたご意見を参考に情報発信に努めて参ります。

研修会のご案内

９月12日（土）に東京都作業療法士会区中央部・区南部・島しょ部ブロック主催の「運転支援ビギナー勉強会－経験ゼロから学ぶ評価と支援のポイント－」に、当委員会メンバーが講師として参加いたします。運転支援の考え方について学ぶとともに、ドライビングシミュレーターを用いた体験も予定しており、初めて支援に携わる方にも分かりやすく学べる内容です。運転支援に興味のある方はぜひご参加ください。（編集注釈:ニュース発行時点ではすでに開催済みです）

就労支援委員会 第22回東京都作業療法学会のご報告

就労支援委員会　**工藤 美和**

当委員会では、本学会において「働くを支える作業療法士～特例子会社での実践から学ぶOTの新たな役割～」を企画、開催いたしました。講師に、みずほファイナンシャルグループの特例子会社「みずほビジネス・チャレンジド株式会社」で勤務されている古澤美樹氏をお招きしました。古澤氏は回復期リハや外来リハ等での勤務を経験された後、現在の企業に入社。障がいのある社員の方々の企業内支援（定着支援コーディネーター）をされています。その経験から、特例子会社における企業内支援の実際、OTの役割、視点等について講演いただきました。参加していただきました皆さま、ありがとうございました。

企業内支援に必要なスキルには、医学的な視点から障害特性を捉え、具体的な配慮事項を企業に提示する力、また、本人と企業とをコーディネートする力などが必要です。OTはそれらのスキルを備えているため、企業内支援の現場においてOTへの期待は今後ますます高まるのではないでしょうか。

古澤氏の活動内容は、「作業療法ジャーナル59巻８号（2025年７月発行）」にも寄稿があります。ぜひご一読いただき、企業で「働く」を支えるOTについてより深めていただければと思います。

※特例子会社：障害者の雇用促進と職業的自立を目的として、厚生労働大臣の認定を受けた特別な子会社のこと。令和７年６月１日現在、631社（厚生労働省ホームページより）。

第22回東京都作業療法学会公募企画（災害対策）のご報告

保険部担当理事（災害対策担当） **松岡 耕史**



体験して考える～避難所支援で作業療法士ができること～

大規模災害が発生した際、私達作業療法士は避難生活をしている被災者の生活環境を整え、災害関連死や生活不活発病を予防する役割を担うことができます。しかし、「避難所で作業療法士が具体的に何を行うのか」を学び、体験する機会は多くありません。

そこで、７月５日に開催された第22回東京都作業療法学会の公募企画では、段ボールベッドや災害用簡易トイレなどの防災用品を実際に体験しながら、避難所における環境調整や生活支援について考えました。

防災備品の体験ワークショップ

段ボールベッドや災害用簡易トイレについて、話に聞くことはあっても実際に触れたり使用方法を確認したりする機会がなかった参加者も多くみられました。

ワークショップでは､床に敷いた寝袋と段ボールベッドの寝心地や起き上がりやすさの違いを体験しました。段ボールベッドを使用することで、床からの立ち上がりや離床がしやすくなり、生活不活発病の予防にも役立つ可能性を体感していただきました。

また、災害用簡易トイレの構造や排泄物を自動で処理をする機能、使用方法を確認し、避難所において排泄環境を衛生的かつ安全に整えるための視点についても共有しました｡避難所での支援方法を知っておくことで、災害リハビリテーション支援の幅が広がることや、日頃の臨床での作業療法士としての視点や知識が災害時にも活用できることを学ぶ機会となりました。

災害派遣登録バンクへのご登録をお願いします

2026年７月28日に、熊本県熊本地方を震源とし、最大震度７を観測する地震が発生しました。災害は東京都内だけでなく、全国の様々な地域で発生します。大規模災害が発生した際には、東京都の作業療法士も都内外の災害リハビリテーション支援に協力することができます。

東京都作業療法士会では、災害派遣登録バンクの登録者を中心に、研修や災害発生時の災害リハビリテーション支援に関する協力要請などをご案内します。災害支援に関心のある方は、下記のURLまたはQRコードから是非ご登録ください。

災害派遣登録バンク登録フォーム

https://forms.gle/jm5TELQU1dSfmN6Q8

東京都作業療法士会では、この他にも災害対策に関する取り組みを行っています。

ご興味のある方は下記までお問い合わせください。

tokyootsaigaitaisaku@gmail.com（東京都作業療法士会 災害対策担当：松岡）

ブロック活動報告

区東部・東北部ブロック

北千住訪問看護ステーション　加藤 智也

区東部・東北部ブロックでは、『地域に即した連携をどう広げるか』というテーマで、OT・PT・ST各区連絡会と連携した研修会を開催予定です。OTだけに留まらず多職種との横のつながりを強めることで、地域を超えた作業療法実践が可能になることと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

また、今年度から新たに３名のブロック委員が加入し、当ブロック内でのつながりも増えて参りました。まだまだ新メンバーを募集しておりますので、ご興味のある方はご連絡ください。

連絡先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com

研修会申し込みフォームはこちら（締め切り９/18（金））
2026年９月25日（金）19：00～21：00　ムーブ町屋
※定員数に限りがございます。定員オーバーの場合はご容赦ください。

区西部・区西南部ブロック

リニエ相談支援中野　扇 浩幸

このニュースが届く頃はまだ残暑厳しいでしょうか。もう少しすると過ごしやすい季節になり、さまざまな活動もしやすくなってきますね。

さて、私たち区西部・区西南部ブロックは来年度、学会運営の担当となりました。学会運営は会員の皆さまのお力添えなくしては成功しません。７月の都学会で学会長とテーマを発表し、実行委員もスタートしておりますが、まだまだ数としては足りていない状況です。「学会の裏側ってどうなってるんだろう」「企画にできる範囲で携わってみたい」など、ほんの少し興味があるだけでも構いません。ぜひ、お手伝いいただける方を募集しております。ご興味のある方は、ブロックのアドレスまでお気軽にお問い合わせください。切に！お問い合わせお待ちしております！

連絡先：seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

東京北医療センター　茶木 彩奈

今年度から区西北部ブロック委員になりました、茶木彩奈と申します。繋がりの中で参加することになったブロック委員､これからも人と人との繋がりを大切にしていきたいと考えております。よろしくお願いします。

区西北部ブロックでは、10月９日に「退院後を見据えた支援とは？－事例から学ぶ地域社会資源とOTの役割－」というテーマの研修会の開催を予定しています。対象者の退院後の生活を見据えた関わりを支援できるよう一緒に考えてみませんか？みなさんの参加をお待ちしています！

また、区西北部ブロックでは活動メンバーを募集しております。ご興味のある方は下記のメールアドレスまで気軽にご連絡ください！

連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック

阿部 幸太　森田 将健

７月10日には「OT新人教育会議」と題し、作業療法協会の新人教育体制と併せて４施設の教育体制を講義していただきました。37名の参加者はブロック外からの参加者が多く、東海地方など他県からの参加もあり盛況な研修会となりました。皆さん関心が高くアンケートも87％の回収率と次回の研修にも参加したいと返答が得られました。

９月12日には「運転支援ビギナー研修会 ～経験ゼロから学ぶ評価と支援のポイント～」を開催しました。本稿執筆時点では準備の真っ最中ですが、講義やドライビングシミュレーター体験を通して、参加者の皆様にとって明日からの臨床に役立つ学びの機会になり、また、参加者同士の交流を通じて、それぞれの臨床実践への活力につながる研修になっていればと願っています。

研修会の準備などブロック委員活動は忙しくなりましたが、その分、多くのOTに役に立ち、都学会員に還元できる活動につながっているブロック活動となっています。ブロック活動に興味のある方、他のOTとつながりたい方など、ぜひ一度活動や会議の様子を見学してみてください！ご連絡お待ちしております。

連絡先：ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

社会福祉法人むうぷ　大貫 真理

７月５日（日）に杏林大学井の頭キャンパスで開催された第22回東京都作業療法学会は、700名を超える多くの皆さまにご参加いただき、盛会のうちに終了しました。北多摩ブロックが中心となり、「ツドい・繋がり・拡がる」をテーマに運営を行い、多くの出会いや学び、繋がりが生まれる貴重な機会となりました。ご参加いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。



北多摩ブロックでは、今後も繋がりを大切にした「ツドイノバ（OT座談会）」や、学会でも好評だった園芸作業療法研修（９月13日開催）を予定しています。（編集注釈：原稿執筆時点）

詳細はInstagramにて随時発信いたしますので、ぜひご覧ください。（@kitatama_ot）また、北多摩ブロックでは引き続き活動メンバーを募集しております。ご興味のある方は、お気軽にご連絡ください。（ot_kitatama@gmail.com）

連絡先：ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック

南多摩病院　多賀井 祐聡

暑さが日ごとに増しておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。先日、西多摩･南多摩ブロックでは、「施設を越えて つながる、学ぶOT研修会」を行ないました。他ブロックからの参加者も来ていただき、それぞれの領域でのOTを紹介し合いながら交流することができました。ありがとうございました。今後も私たちのブロックでは、「作業活動を通してOT同士が交流 する」をテーマに様々な企画を計画しております。次回は、11月頃に集合開催にて普段は経験できない作業を実際にやってみたり、普段行っている作業を改めて考えるような研修を考えています。今後も皆様にとって有意義な時間を作っていけるよう努めてまいりますので、ご興味あれば是非ご参加ください。

連絡先：nishitamaminamitama.block@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

教育部からのお知らせ

2026年度　現職者選択研修（身体障害領域）開催のお知らせ

日時：2026年10月25日（日）9：00～16：10
定員：約90名
研修方法：Zoomによるオンライン研修
申し込み期限：2026年10月18日（日）
※詳細は東京都作業療法士会HPまたはQRコードをご参照ください。

2026年度　現職者選択研修（精神障害領域）のお知らせ

日時：2027年1月17日（日）9：00～16：10
定員：80名
研修方法：Zoomによるオンライン研修
申し込み期限：2027年1月7日（木）
※詳細は東京都作業療法士会HPまたはQRコードをご参照ください。

※その他にも教育部で主催している基礎ポイント研修の参加募集が続々と開始になっております。都士会のHP「研修案内」をご参照ください。

広報部より会員の皆様へ

いつも都士会ニュースをご覧頂きありがとうございます。
現在、広報部では本誌の段階的な電子化を進めております。オンラインの強みを活かした誌面作りのアイデアを出しながら、より良い広報を目指しているところです。
すでに都士会ホームページでは本誌のバックナンバーを「各種ダウンロード」（下アイコン最右のQRコード）から、どなたでもご覧いただけるようになっています。また、ニュース最新号アップロード情報をお知らせさせていただくようにいたしますので、各種都士会公式SNSのフォローをお願いいたします。
本誌電子化については今後のお知らせをご確認いただきますよう、よろしくお願いいたします。

TOKYO_OT

編集後記

現在、次号広報誌OTOの取材を進めており、魅力的な方々からお話を聞く時間を楽しませていただいています。
「作業療法士は黒子」と表現されることがあります。利用者さんが自分らしい生活を取り戻し、その人らしく輝けるように支えることが、私たちの役割だからです。支援がうまくいくほど、作業療法士の存在は目立たなくなるのかもしれません。
しかし、その一方で、私たちの仕事や魅力は、まだ十分に社会へ伝わっていないと感じます。「作業療法士って何をする人？」という声を耳にすることも少なくありません。
黒子であることと、その価値を広くPRすることは矛盾するのではないか？と自問したことがありました。しかし、利用者さんを主役にする姿勢は変えずに、私たちの専門性や支援の力を社会へ発信していくことも大切なことだと今では思っています。
広報誌OTOが、作業療法士の魅力を知っていただくきっかけとなり、一人でも多くの方にその魅力が伝われば嬉しく思います。

広報部　森本美和

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会　事務局
〒160-0022　東京都新宿区新宿５－４－１　新宿Qフラットビル501号室
TEL：03-6380-4681　　FAX：03-6380-4684
◆東京都作業療法士会ホームページ　　http://tokyo-ot.com/
◆東京都作業療法士会ホームページ窓口　postmaster@tokyo-ot.com
※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。
ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。